

文献発表

石塚直樹

研究概要

ラップという手法を用いて、グループの相互作用を生み出す研究を行う。(それをどうするかを検討中) 具体的にはラップがまずあり、そのラップという声の要素からリズムといった要素が生み出される。そこにはラップから生まれたグループがあり、それに合わせてラップを適応することで、さらに次のリズムが生成される。それを繰り返すことで、グループが途切れなく生み出されることとなる。そのグループに適応しようとすることで、生み出されるリズムと、適応しようとするラップが、ピッタリ合う瞬間を目指すというものである。そこで予想されるのは、一般に言う音楽というようなリズムが生み出されないことである。それを改善し、この手法音楽の中に組み込めるようにすることを院で目指していきたい。研究会では、そのリズムやグループというものの捉えられ方なりを調べたい(検討中)。

本論文の内容

コンピューターによって作られる音楽のグループ感のなさ＝機械的になってしまう、という点に問題点を抱き、実際のドラム演奏のグループ＝ずれや強弱を定量的に観察し、それをアルゴリズム化し、コンピューターによってグループ感のある音楽を演奏するシステム構築を目指している。本論文内では、そのシステム構築までは至っておらず、グループにおいてはおおまかにタイトとルーズが存在し、先行研究と同じ結果であったことが報告されている。

研究への応用

まずグループという言葉の定義をするために、今回の論文は役立ったように思う。そこで、今回わかったことは、やはりドラムのグループを生み出す要素としてはズレが重要だということである。私が行う研究というのも、グループに着目したものである。その上で本論文に述べられているような先行研究をさらに、調べ、自らの研究に活かしたい。